

# 個性化と連携協力の模索

応用生物科学部 学部長 金丸 義敬



東日本大震災という未曾有の困難に直面した3月11日の記憶が現時点でも依然として生々しく残り、すさまじい被害の傷跡がほとんど消えることなくそのままに残っております。がんばろう！日本。のかけ声の下に国民が一丸となって復旧に向けた懸命の努力を続ける中で、会員の皆様方におかれましても、さまざまなかたちで復興に向けた活動への協力にご腐心されておられることと拝察いたします。

学部長として2年目となり、福井博一教授（評議員、総務・財務から教学に担当変更）、連合農学研究科長に就任された鈴木文昭教授の後任をお願いした山内亮教授（総務・財務担当）、そして、杉山誠教授（企画・広報担当）の3名の副学部長に加えて、今年度から新たに花瀬敏孝事務局長及び奥村一世事務局長補佐を迎え、総勢6名のメンバーで学部運営に努めております。

本年6月に国立大学協会がまとめた「国立大学の機能強化に関する中間報告」では、各大学のそれぞれの個性と特色を最大限に活かし、個々の大学において人的・物的リソースをもっと効果的に活用出来るような運営を行うとともに、相互に連携協力しながら、国立大学が1つの「有機的な連携共同システム」として総力を結集して、人類の課題に真正面から取り組んで、新たな学術知の創出を図り、大震災からの再生と継続的な成長発展のために先頭に立って、危機対応も含めたあらゆる場面で国民の負託に応えていくことを社会的責務とし、共通の方針とすること。を「国民への約束」として宣言しております。個性化と連携協力がこれからの大学運営のキーワードです。

これに照らして考えますと、7年前の「農学」から「応用生物科学」への学部の看板の掛け

替えは、個性と特色を活かす1つの先進的な試みであったと位置づけることが出来ましよう。生産環境科学課程と獣医学課程では高い受験倍率が維持され、本年度の入学生から適応される食品生命科学課程から応用生命科学課程への名称変更により、これまで心配されてきた当該課程の受験者数の低下に歯止めが効き始めました。また、継続して検討してきた3つの課程の教育プログラムの見直しを通して、全学共通科目、教養基礎科目、専門基礎科目、専門科目という4つの教育群としてのカリキュラムの整理も一応完了し、農学教育の伝統を堅持しながらも21世紀の「生物産業」全般に活躍できる人材の育成にいよいよ本格的に取り組む土台ができ上がったと受け止めているところです。

昨年度末の卒業生に対するアンケート調査によれば、本学部の教育内容には8割を超える学生たちが満足もしくはほぼ満足と受け止めてくれているようであり、教職員一体となったこれまでの努力が決して無駄ではなかったことを素直に喜んでいるところがあります。また、全学的取り組みとして外部企業に委託する形で本年度の入学生に対して行われた大規模な調査によると、本学部の入学生は他の学部比べて非常に明確な目的意識を持っているとの結果がまとめられました。3つの課程のそれぞれのアドミッションポリシーが十分理解され、勉学意識の高い学生たちが集まってくれていることには大変強いものがあります。学長直行便を通じた卒業生の皆様からの学長への直接の意見表明では、「農学部」への帰属を望む声が依然として寄せられていますが、大学の個性化という流れの中で、農学教育の伝統を堅持しつつ現行の学部の内容をさらに充実させることが本学部の将来

来にとつてきわめて大切であることを是非ともご理解いただきたいと思います。さらに、大学院を加えた6年間の一貫した教育を進めるべく、学部教育の積み上げとして大学院教育のさらなる充実を目指して、現在修士課程教育プログラムの見直し作業を鋭意行っているところです。来年のこの便りでは皆様にその具体的な内容をご報告できるものと考えております。教育ばかりでなく研究においても、他の大学にはない本学部の個性と特徴をさらに明確化する努力をこれからも続けていこうと考えております。

一方、もうひとつのキーワードである外部との連携協力ですが、これについてもこれまでさまざまななかたちで取り組んでまいりました。外部教育機関との間の主だった連携だけを記しても、博士号取得者の養成では、連合農学および連合獣医学研究科の基幹校として、複数の国立大学との連携協力を長期にわたって続けてきていることはずにご承知のとおりです。大学院修士課程の教育における連携協力では、昨年度末に中国の大学との間で新しい試みに向けて協定を取り交わしました。広西大学の農学系5研究科と本学応用生物科学研究科との間のダブルディプロマプログラムの締結です。広西大学の大学院生を本学に受け入れ、2年間の教育を通して日本の修士号を取得させ、帰国後は中国での再教育を通して中国の修士号取得も認められるというものです。当面は毎年2名ずつの学生受け入れを行いますが、順調に進めばさらに受け入れ枠の拡大もあるかもしれません。全国的にもたいへんユニークな試みとなりませんが、国際的な農学教育の実現として、その成果が大いに期待されるところです。

学部レベルの連携協力としては、まだ日の浅いところではありますが、岐阜県東濃農業教育システム」の構築があり、また、今年度で終了となりませんが、戦略的連携支援プログラムとしての「獣医・動物医学系教育コンソーシアム」による社会の安全・安心に貢献する人材の育成を進めていることについてもすでに報告させていただきました。後者の連携協力については、協力をさらに深めるかたちで、鳥取大学との間で共同獣医学科を設立しようという計画が現在進みつつあります。新聞報道等ですでにご承知のとおりかと思いますが、獣医学教育の連携協力では、鹿

道大学と帯広畜産大学及び東京農工大学と岩手大学との間の共同獣医学科もしくは共同獣医学課程の設置が認められ、平成24年度の入学者受け入れを目指した作業が進められております。我が国における国際レベルでの獣医学教育の必要性に基づいて検討されてきた獣医学教育のためのコアカリキュラムの実現には現行の個別大学の教員数では対応不能との認識があり、前述の共同学部（学科）の設置が進められてきたわけですが、既述のコンソーシアムによって、本学部では他大学に先駆けて外部との連携教育を具体化させておりますが、鳥取大学との間で教員組織も含めて共同獣医学科の設置が是非必要であるとの認識に至っております。作業が順調に進めば、平成25年度からの出発となる予定です。これについても来年には詳細をご報告できるでしょう。

本年4月には新たに学部206名、大学院103名の新入生を迎え入れることができました。組織面では、昨年発生した口蹄疫の流行に対する対応の未熟さを克服すべく、国家戦略として産業動物臨床教育の充実が掲げられ、本年度に獣医学課程で新たに1名の准教授の増員が認められました。同様に、「口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備事業」の要求が認められ、時限的ではありますが、本学部に特任教授1名の採用も認められています。さらには、高額の設備充実費の配分もあり、臨床獣医学教育についての非常に手厚い手当てがあったことが特筆されます。

本年の科学研究費補助金の配分は当初は7割止まりとされ、残りの配分があるのかどうかも危惧されており、教育研究のための経費がますます窮乏なものとなってまいりました。来年度の国家予算では大震災からの復興のための経費確保が最優先とされることは間違いなく、運営費交付金の大幅な削減も予測される状況下、同窓会の皆様からのご援助が是非とも必要と考えております。これまで皆様からいただきました多額のご寄付に対しまして、今後とも変わらぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。最後に、切にお願い申し上げます。最後になりましたが、いただいた寄付金の一部を使用して今年度当初に学部の書庫を整備させていただきました。後藤悦男同窓会長様からは「各務同窓会書庫」の揮毫をいただきましたことを付記させていただきます。



# 会長挨拶

後藤 悦男

同窓会の皆様には益々ご清栄の段、お喜び申し上げます。平素は同窓会への格別のご協力を賜り、誠にありがとうございます。また母校の先生方には献身的にご指導お世話を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年、学部卒業生二〇六名、大学院修了生八十六名が卒業され、皆様方を本会会員に迎えました。全国の各支部におかれましては、新会員の受け入れにご高配を賜りますようお願い致します。

母校・応用生物科学部は、金丸学

長様はじめ全先生方が母校・農学の心DNAを大切にされ、研究教育を通して、有為な人材育成に、地域社会・産業・国・国際社会にお役に立ち、貢献されていることに、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

今年三月十一日の東日本大震災・福島原発事故で、被災された方々にお見舞い申し上げます。各務同窓会はHPで大震災のお見舞を、また岐阜大学同窓会連合会はHPで被災者の方々へのお見舞と義援金協力をお願いを致しまし

# 幹事長挨拶

幹事長 景山 幸二

(流域圏科学研究センター・生産環境科学課程)

本年三月十一日に起きました東日本大震災さらに追い討ちをかけるように発生した原子力発電所からの放射能汚染の被害を受けられた方に心よりお見舞い申し上げます。岩手、宮城、福島、茨城の各支部に同窓生の安否をお尋ねしたところ、幸いなことに直接的に大きな被害を受けられた方はいないとの報告を受けておりますが、大小に関わらず多くの方が寂しさ、悲しさを受けられているとお察しいたします。今回の大災害に関しては岐阜大学としても多くの取り組みをしております。同窓生として直接関係する部分としましては、卒業証書に関することがあり

ら、申し出て頂けるとありがたく存じます。現在、多くの同窓会支部で人数の減少、高齢化に悩まされています。本年の代表委員会において支部の活性化、さらには同窓会の活性化が重要課題であることを再認識しました。先日、卒業生と話して驚いたことがありました。「なぜ応用生物科学部の同窓会の名前が各務同窓会？」と聞かれました。自分はこれまで何の違和感もなかったのですが、よく考えてみると柳戸キャンパスで勉強し卒業した方々にとつては「各務」は何？と思われるに十分なことに気付かされました。応用生物科学部の前身の農学部が現在の柳戸に移る前は各務原市にあったから「各務同窓会」とお答えしました。こんなことも大切なことを卒業生に十分にお知らせ

た。早速、多くの方々から暖かい義援金のご支援を頂いていますこと、深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

六月四日、各務同窓会代表委員会の開催。大震災・原発事故の被災地の各支部から頂いたご報告を発表し、委員会にご出席された岩手支部・岡田幸助様、茨城支部・古賀清司様から、現地の極めて厳しい実情のご報告がありました。各支部の皆様が、復興への多大のご苦労とご尽力をされておられることに、心から敬意を表し、感謝を捧げる次第です。今度の教訓から、農業・林業・畜産・水産業の健全復興には、学



官・産・消が一体となって協力実践することが最重要であると存じます。本委員会で、各務同窓会支部の活性化について協議を致しました。各支部の皆様からのご報告ご提言を基にして、今後、支部活性化の取り組みを行って参ります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

昨年十月から、岐阜大学は就業力育成科目「私は社会でこう生きてきた」が開講され、各務同窓会から私と共に、飯田昌敏様、宮本晃様、平工孝義様が講師を務められました。学生たちは真剣に受講し、とても有意義であったのレポートを頂きました。本科目は継続科目ですので、皆様方のご協力をお願い致します。

三月二十五日、卒業式応用生物科学部あるいは応用生物科学部同窓生の教員が勤めてきましたが、より開かれた同窓会にするべく、応用生物科学部教員全員が対象となつて進めることになりました。これは大学改革の一つに同窓会の強化を図り、卒業後も大学と密接な関係を構築するという方針にも沿うような形で改革です。このような意味でも、同窓会支部を含めた同窓会の一層の活性化は重要と考えております。

本年度の行事としては、六月四日に代表委員会を開催、本同窓会報の発行をいたしました。また、各支部総会への教員の派遣、卒業式での学部三名と修士課程二名に対する同窓会長賞の授与を行います。また、昨年に引き続き一年生を対象とした教養科目として開講される就業力育成科目「私は社会でこう生きてきた」岐阜大学の先輩たちの見る日本社会への講師派遣を行いました。昨年度は後藤会長の他、愛知県各務会、中濃支部、岐阜県各務同窓会から講師の推薦を頂きました。

部祝賀会で、学業優秀の五名の方々に、同窓会長賞を贈呈しました。

応用生物科学部への寄付金拠出のお願いに、多数の方々から多額の寄付を頂いておりますこと、感謝・感激でいっぱい입니다。引き続きご支援下さいますようお願い申し上げます。また岐阜大学基金への寄付にご協力頂いておりますことに、御礼申し上げます。

私事で恐縮ですが、此の度、応用生物科学部は開校以来の貴重な資料を保管・活用する「各務同窓会書庫」を設置され、その表札に揮毫させて頂きました。学部長様はじめ先生方のご高配に感謝申し上げます。

皆様のご健康を、母校と各務同窓会の発展を祈念申し上げます。

合掌

学生たちの授業評価では、「大変感銘を受け、これからの生き方に参考になり、素晴らしい授業でした。」との評価を受けております。会長挨拶に掲載しております講師をお引き受けくださった方々に大変お礼申し上げます。また、本年度も同じ方々に講師をお願いいたしました。

平成二十年からはじめました応用生物科学部寄附金制度は本年も継続してお願いいたしております。十月三日付けで八十二件、一九三、〇〇〇円の浄財を賜りました。深く御礼申し上げます。昨年度は、この寄附金により各務同窓会書庫を応用生物科学部別棟に設けることができました。これまで、倉庫に眠っていた同窓会関係の資料や研究室がなくなり行き場所のなくなった卒業論文を整理して、閲覧できるようになりました。ありがとうございます。

最後に各務同窓会会員の皆様のご健勝と御活躍を祈念いたします。

各務同窓会報

平成二十三年  
各務同窓会代表委員会報告

平成二十三年度各務同窓会代表委員会は六月四日(土)正午から長良川河畔のホテルパークで開催されました。当日は、天気にも恵まれ初夏の陽気の中、多くの方の参加をいただきました。

北海道から高知県まで三十五支部三十九名の代表委員の方々に加えて、役員および幹事など十三名を合わせて五十二名の参加をいただきました。

代表委員会は後藤悦男会長の挨拶で始まり、同窓会への寄付金に対するお礼、本同窓会のますますの活性化に向けた対策を実施していくこと、岐阜大学同窓会連合会および各務同窓会会長を今年度限りで退任

することが述べられました。それから平成二十三年度の幹事長、幹事ならびに監事の紹介の後、景山幸二幹事長から就任の挨拶がありました。まず、東日本大震災の被災者に対するお見舞いの言葉の後、特に大被害に遭われた地域を代表して岩手支部岡田幸助氏(V大15)と茨城支部古賀清司氏(E大10)よりお見舞いに対するお礼と被災状況のご報告がありました。また、今年度からは岐阜大学卒業でない教員にも幹事の就任をお願いしていることが報告されました。続いて、議長に岐阜県職各務同窓会支部の村山巖氏(E大23)が選出され、議事

に入りました。

第一議案は平成二十二年度事業・決算報告および会計監査報告で、福井博一前幹事長から資料に基づき事業報告がありまし

した。審議では予備費の使途の質問に対して、東日本大震災の義援金に支出したこと、収入のうち入会金の未収金にかなりあるとの意見に対して、学生のご両親の同窓会に対する理解を得ること、就業力に関する企画などにより同窓会の意義を訴え、改善したいという回答がありました。これらの審議を踏まえた上、本議案は原案通り承認されました(4頁参照)。

第二議案は平成二十三年度事業計画(案)について、長岡利幹事より説明がありまし

た。会報(第92号)の発行は平成二十三年十一月中旬を予定していること、平成二十四年三月二十五日の卒業式における同窓会長賞表彰は学部三名、大学院二名とすることが提案され、審議の結果、原案通り承認されました。

第三議案は平成二十三年度予算(案)について向井讓幹事から説明があり、承認されました(4頁参照)。

その他について景山幹事長より以下の四



点の提案等がありました。(一)就業力育成に関する講義の講師の推薦について、昨年と同様の四名に依頼したいとの提案が承認されました。(二)昨年度削除の方針が出された不明支部(愛知各務獣医同窓会)について、その後の調査を実施しましたが、依然消息不明であったため、削除することになりました。(三)寄付金の振込方法について簡便化してほしいとの要望に対しては、振込先をゆうちょ銀行でもできるよ

うにしたいこと、ただし手続方法については従来通りとすることが報告されました。(四)支部活性化について、アンケート調査の結果から卒業生の情報が伝わっていないことと、大学を身近に感じられないということから、卒業時に会長より同窓会の大切さをアピールしてもらうことにしました。また、

昨年度より実施しています学部のイベント情報の発信、会員データの取得方法の周知と活用、会報への支部活動の掲載などを積極的に進めていくことが確認されました。さらに、来年度は会員名簿の発行をします

ので、導入部に工夫を凝らして親しみやすいものにしていくことになりました。

平成23年度岐阜大学各務同窓会役員

Table with 3 columns: Role (名誉会長, 副会長, 相談役), Name, and Affiliation (e.g., V大2, A大7, etc.).

平成22年度支部総会開催状況

Table with 5 columns: Branch Name, Date, and Attendees (e.g., 東京E科会, 22.04.26, 天谷孝夫).

平成23年度幹事長・幹事及び監事

Table with 2 columns: Position (幹事長, 幹事, 監事) and Name/Affiliation (e.g., 景山幸二, 丸尾幸嗣).

## 各務同窓会報

## 平成22年度各務同窓会決算報告

自平成22年4月1日 至平成23年3月31日

## 1. 一般会計 2. 基本金特別会計 3. 資産現在高 4. 資産保管状況

## 1. 一般会計

## (1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 会費	2,440,000	1,850,700	△ 589,300
入会金	2,300,000	1,750,000	△ 550,000
年会費	140,000	100,700	△ 39,300
2. 利子	1,488	330	△ 1,158
3. 雑収入	540,000	495,840	△ 44,160
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,000,000	3,150,000	150,000
当期歳入合計(A)	5,981,488	5,496,870	△ 484,618
前年度繰越収支差額	227,512	227,512	0
歳入合計(B)	6,209,000	5,724,382	△ 484,618

## (2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事務費	2,181,000	1,971,895	△ 209,105
消耗品費	10,000	22,044	12,044
人件費	1,800,000	1,739,976	△ 60,024
通信費	30,000	31,250	1,250
旅費	36,000	36,000	0
終身会費返金	300,000	140,000	△ 160,000
雑費	5,000	2,625	△ 2,375
2. 会議費	1,210,000	953,916	△ 256,084
代表委員会費	200,000	138,300	△ 61,700
代表委員会旅費	1,000,000	813,440	△ 186,560
役員会費	10,000	2,176	△ 7,824
3. 事業費	2,050,000	1,970,049	△ 79,951
会報等印刷費	500,000	500,000	0
会報郵送費	900,000	823,980	△ 76,020
雑費	600,000	599,326	△ 674
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	36,743	△ 3,257
4. 名簿関係費	10,000	5,980	△ 4,020
発送費	10,000	5,980	△ 4,020
5. 慶弔費	50,000	42,346	△ 7,654
6. 支部総会派遣費	400,000	399,250	△ 750
7. 卒業・修了祝賀会費助費	150,000	150,000	0
8. 予備費	70,000	151,561	81,561
当期歳出合計(C)	6,121,000	5,644,997	△ 476,003
当期収支差額(A) - (C)	△ 139,512	△ 148,127	△ 8,615
次期繰越収支差額(B) - (C)	88,000	79,385	△ 8,615

## 2. 基本金特別会計

## (1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 終身会費	4,620,000	3,500,000	△ 1,120,000
新入生分	4,600,000	3,400,000	△ 1,200,000
卒業生分	20,000	100,000	80,000
2. 雑収入	0	0	0
3. 利子	160,102	112,793	△ 47,309
当期歳入合計(A)	4,780,102	3,612,793	△ 1,167,309
前年度繰越収支差額	71,486,898	71,486,898	0
歳入合計(B)	76,267,000	75,099,691	△ 1,167,309

## (2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 一般会計への繰入	3,000,000	3,150,000	150,000
2. 振込料	5,000	0	△ 5,000
当期歳出合計(C)	3,005,000	3,150,000	145,000
当期収支差額(A) - (C)	1,775,102	462,793	△ 1,312,309
次期繰越収支差額(B) - (C)	73,262,000	71,949,691	△ 1,312,309

## 3. 資産現在高

(単位：円)

項目	年度始現在高	現在高
1. 一般会計	227,512	79,385
2. 基本金特別会計	71,486,898	71,949,691
合計	71,714,410	72,029,076

## 4. 資産保管状況

(単位：円)

項目	一般会計	基本金会計
1. 現金	2,331	
2. 普通預金		
大垣共立銀行	691	
十六銀行	37,636	2,627,462
中央三井信託銀行		2,429,419
三菱UFJ信託銀行		3,011,542
郵便局	38,727	
みずほ銀行		5,472,858

3. 定期定額貯金		
大垣共立銀行		9,597,592
十六銀行		21,810,818
三菱UFJ信託銀行		6,000,000
中央三井信託銀行		21,000,000
4. 振替貯金	0	0
5. 金銭信託		
三菱UFJ信託銀行		0
合計	79,385	71,949,691
総計		72,029,076

## 平成23年度各務同窓会予算

収支予算書 (平成23年4月1日～平成24年3月31日まで)

## 1. 一般会計

## (1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 会費	2,380,000	2,440,000	△ 60,000
入会金	2,260,000	2,300,000	△ 40,000
年会費	120,000	140,000	△ 20,000
2. 利子	615	1,488	△ 873
3. 雑収入	540,000	540,000	0
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,230,000	3,000,000	230,000
当期歳入合計(A)	6,150,615	5,981,488	169,127
前年度繰越収支差額	79,385	227,512	△ 148,127
歳入合計(B)	6,230,000	6,209,000	21,000

## (2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 事務費	2,181,000	2,181,000	0
消耗品費	10,000	10,000	0
人件費	1,800,000	1,800,000	0
通信費	30,000	30,000	0
旅費	36,000	36,000	0
終身会費返金	300,000	300,000	0
雑費	5,000	5,000	0
2. 会議費	1,210,000	1,210,000	0
代表委員会費	200,000	200,000	0
代表委員会旅費	1,000,000	1,000,000	0
役員会費	10,000	10,000	0
3. 事業費	2,150,000	2,050,000	100,000
会報等印刷費	500,000	500,000	0
会報郵送費	900,000	900,000	0
雑費	700,000	600,000	100,000
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	40,000	0
4. 名簿関係費	10,000	10,000	0
発送費	10,000	10,000	0
5. 慶弔費	50,000	50,000	0
6. 支部総会派遣費	400,000	400,000	0
7. 卒業・修了祝賀会費助費	150,000	150,000	0
8. 予備費	70,000	70,000	0
当期歳出合計(C)	6,221,000	6,121,000	100,000
当期収支差額(A) - (C)	△ 70,385	△ 139,512	69,127
次期繰越収支差額(B) - (C)	9,000	88,000	△ 79,000

## 2. 基本金特別会計

## (1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 終身会費	4,560,000	4,620,000	△ 60,000
新入生分	4,520,000	4,600,000	△ 80,000
卒業生分	40,000	20,000	20,000
2. 雑収入	0	0	0
3. 利子	120,309	160,102	△ 39,793
当期歳入合計(A)	4,680,309	4,780,102	△ 99,793
前年度繰越収支差額	71,949,691	71,486,898	462,793
歳入合計(B)	76,630,000	76,267,000	363,000

## (2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 一般会計への繰入	3,230,000	3,000,000	230,000
2. 振込料	5,000	5,000	0
当期歳出合計(C)	3,235,000	3,005,000	230,000
当期収支差額(A) - (C)	1,445,309	1,775,102	△ 329,793
次期繰越収支差額(B) - (C)	73,395,000	73,262,000	133,000

# 学園だより

## 課程等の近況

### ◆応用生命科学課程

同窓生の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成23年4月から「食品生命科学課程」は「応用生命科学課程」に名称変更し、生物産業で活躍する人材養成のために教育内容を見直しました。「食品科学コース」の「食品生命科学コース」への変更もその一環です。その結果、受験生の増加となり、より優秀な学生が入学しております。

さて、本年3月に卒業生90名を送り出し、そのうちの50名(他大学院進学者4名を含む)が修士課程に進学しました。修士課程修了者は、資源生命科学専攻の第2期生45名で、うち2名が博士課程に進学しました。就職に関しては、東日本大震災の影響もあって、学部4年生と修士2年生の就職活動が早期から長期にわたるなど益々厳しくなっており、教育への悪影響を大いに懸念いたしております。皆様の一層のご理解、ご協力とご支援をお願い申し上げます。一方、本年4月には、本課程に82名(別途、食品生命科学課程への3年次編入生は6名)、また大学院資源生命科学専攻に48名の新入生をそれぞれ迎え入れ、活発な教育・研究活動が行われています。

教員の動向では、河合啓一教授と中塚進一教授が3月末に定年退職されました。先生方の長年にわたるご貢献に感謝申し上げます。一方、金丸義敬教授は引き続き学部長として大学および学部の管理運営の重責を担っておられます。そして、山内亮教授が副学部長(総務・財務担当)として補佐されておられます。また、鈴木

文昭教授が4月より新たに連合農学研究科長として博士課程教育の重責を担われています。荒幡克己教授は入学試験委員長として活躍されております。なお、食品生命科学コースの後藤剛助教がこの5月1日付で京都大学農学部に移られました。本学には短期間の在職でしたが、今後の活躍を期待いたしております。

末筆ながら、皆様の益々のご活躍とご多幸を祈念申し上げます。

(高見澤一裕)

### ◆生産環境科学課程

生産環境科学課程の近況をご報告申し上げます。本年3月、本課程から85名が卒業し、うち37名(他大学院を含む)が修士課程へ進学しました。また、本研究科第2期の修了生として生物環境科学専攻から39名を送り出し、うち10名が博士課程へ進学いたしました。3月の卒業・修了祝賀会において、卒業生では山中啓史君が学部長表彰、時澤睦朋君が同窓会長表彰を受け、修了生では久田重太君が研究科長表彰、小笠原利恵さんが同窓会長表彰を受けました。一方、本年4月、本課程に新入学生85名(3年次編入学生5名を含む)、また大学院生産環境科学専攻に55名を迎え、活発な教育研究がこなわれています。

次に、各コースの動向についてお知らせいたします。

応用植物科学コースは、13名の教員からなり、コース長は百町満朗教授です。本年4月に「植物病理学」分野の准教授として清水将文氏が、「植物栄養学」分野の助教として小林佑理子氏が着任されました。

また、応用生命科学課程から「農業経済学」分野の梶川千賀子准教授が当コースに移動されました。管理運営面では、福井博一教授が教育・研究担当副学部長および教育研究評議会委員として学部のみならず全学の管理運営に尽力されておられます。研究面では、本年4月に小山博之教授が第56回日本土壤肥料学会賞を受賞されました。また、昨年11月には安部淳教授が昨年に続いて第9回中国物流学術年会三等賞を受賞されました。なお、今井健教授(食料生産管理)と安部淳教授(国際農業)は昨年度末をもって定年退職されました。

今井教授は地域農業振興に関わる教育研究会会長として県の農業振興にも尽力され、また、安部教授は食糧問題研究の発展に貢献されるとともに東アジアからの多くの留学生の教育に尽力されました。

応用動物科学コースは、11名の教員からなり、コース長は土井守教授です。本年4月に「動物管理」分野の准教授として二宮茂氏が着任されました。

環境生態科学コースは、16名の教員からなり、コース長は土田浩治教授です。本年4月に「国際環境科学」分野の助教として大西健夫氏が着任されました。小見山章教授は昨年度に続いて理事・副学長として大学全体の学術研究・情報の重責を担っておられます。宮川修一教授も昨年度に引き続きフィールド科学教育研究センター長として付属施設の管理運営を担っておられます。また、清水良英教授は大学院委員長として修士課程の教育研究の発展に貢献されています。なお、天谷孝夫教授(農地環境工学)、芳村一講師(環境材料)が昨年度末をもって定年退職されました。天谷教授は、旧生物生産システム学科から生産環境科学課程へと長年にわたり教育研究に貢献され、とくに内蒙古大学と岐阜大学の大学間交

流には多大な功績を残されました。芳村講師は、旧林学科、旧生物資源生産学科、そして生産環境科学課程と長年にわたり木材をはじめとして環境負荷の少ない建築材料に関する教育研究に貢献されました。

末筆ながら、同窓生各位のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(向井 謙)

### ◆獣医学課程

獣医学課程の現況をお知らせします。3月実施の第62回獣医師国家試験では、31名が受験し、26名の合格者でした。求職は地方公務員を中心に順調です。卒業生の進路は、今年も傾向は変わらず、小動物臨床が46%、地方公務員が34%でした。今年度は大学院進学者が少なく、とくに岐阜大学大学院に進学者は2名のみでした。優秀卒業生として、獣医師会長賞・渡邊祐さん、学長表彰・加藤友紀子さん、学部長表彰・木村佳織さん、同窓会長表彰・赤羽真理恵さんが選ばれました。在学生は辻英里子さん(5年生)が学長表彰されています。

平成22年度末に獣医薬理学研究室教授の小森成一先生が定年退職されました。長年の功績に感謝いたします。これに伴い松山勇人助教が4月に准教授に昇任しました。口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境整備事業の一環として、産業動物臨床学研究室が新設され、獣医内科学研究室の大場恵典准教授が7月に移籍しました。この関連事業では、産業動物臨床実習の充実、家畜感染症等防疫分野の実習の充実等の競争的資金に岐阜大学が採択されています。獣医学分子病態学の星野有希助教が8月に北海道大学に転出されました。また、食品・環境衛生学研

究室の猪島康雄准教授が「野生動物と家畜に広く伝播するパラボックスウイルス感染症の診断法開発と病原性解析」により平成22年度日本獣医学賞を受賞しました。お祝いを申し上げます。

獣医学教育コアカリキュラムが制定され、共同学部課程設置、参加型臨床実習、共用試験(仮免許試験)、さらに第三者評価などによって獣医学教育が変わりつつあります。岐阜大学も鳥取大学と共同教育課程の設置を目指すことになりました。これは獣医学教育の不足を大学間連携で補う取り組みであり、2校で60名以上の教員による獣医学教育が形の上では可能になります。平成25年度入学生からの実施に向けて努力中ですが、この実施に要するエネルギーは膨大であり、不必要な疲弊を避ける必要があると考えています。文部科学省戦略的連携支援プログラム「獣医・動物医科学系教育コンソーシアムによる社会の安全・安心に貢献する人材の育成」が大きな成果をもって最終年度を迎えます。この成果を、共同教育課程に生かすべく準備中です。

岐阜大学獣医学課程における当面の課題は1. 学部教育の充実、2. 産業動物臨床教育体制の整備、3. 動物病院の充実と学部および卒業教育への貢献、4. 大学教員後継者育成等であり、変更はありませんが、獣医学教育改善は現実的な段階に進んでまいりましたが、いっばう運営経費や人件費の削減は相変わらずです。獣医学課程にさらなるご支援・ご鞭撻をお願いいたします。詳細は岐阜大学獣医学課程ホームページのニュースレターをご覧ください。最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍を祈念します。

(北川 均)

各務同窓会報

◆◆連合農学研究所

卒業生の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本研究所は、平成3年の設置から21周年を迎えました。平成22年度の学位授与者数は課程博士18名(外国人留学生7名)と論文博士2名(外国人0名)でした。学位授与者の総数は課程博士が564名(外国人留学生274名)と論文博士が134名(外国人18名)になりました。本年度は定員20名に対して23名(外国人7名)が入学しました。さて、本研究所は昨年度入学生より、ゼミナール制から単位制へ、教育システムを移行しました。ただし、1年次の夏の合宿(総合農学ゼミナール)は継続し、学位の基礎論文は筆頭著者として2報という申し合わせは堅持しております。2年次には研究者倫理、職業倫理やメンタルヘルス・フィジカルヘルス(必須科目、集中)を課し、合宿形式で学んでもらっています。また、学位取得後のキャリアパス支援体制も整えつつあります。今後とも、連合農学研究所の発展のためにご指導とご協力をよろしくお願いいたします。最後に、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

(鈴木文昭)

◆◆連合獣医学研究所

卒業生の皆さま方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。ご存じのことく、3月11日、わが国は東北地方を中心に未曾有の大震災にみまわれました。また、それに続く福島原子力発電所の事故は、これまで予想もなかった規模で放射能汚染をもたらし、その危害は現在も続いております。連合獣医学研究所の構成校の一つであります岩手大学農学部も

被害をうけましたが、建物の被害は軽く、教員および大学院生も無事でした。しかし、社会人入学の大学院生の勤め先であった動物病院が津波で流されたり、実家が津波の被害を受けるなど被災した学生の生活は辛い現実と直面しております。

3月11日の大震災により、3月14日に実施した学位授与式は、岩手大学の学長、教員および学位授与者7名(後期23名の修了生)が全員欠席した異例の式でした。また、4月の入学式は、前日に襲った大余震により岩手大学の関係者全員が欠席する中で行われました。研究科では、岩手大学の教員および大学院生の被害状況の把握に努めると共に、経済的支援を強力に押し進めるべく研究科長裁量経費にて研究支援を行っております。

現在、学部レベルでの獣医学教育の改善が図られつつある中、本研究所では昨年度まで実施してきた大学院GPでの各種事業内容を定着すべく、運営経費にての実施体制の確立に努力しております。多様な事業内容による学生へのサービスの充実とグローバル化時代に活躍できる人材育成を目標に4大学と4連携機関の強い連携の下、大学院教育の実質化と国際化を推進してまいります。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

(石黒直隆)

◆◆岐阜フィールド科学教育研究センター

各務同窓会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。岐阜フィールド科学教育研究センターは、大塚、石田両専任教員、森本、細江、加藤、都竹各技術長の下、応用生物科学部学生対象のフィールド科学ならびに同実習、他学部対象のフィールド科学概論や教育学部対象の栽培学、あるいは学外の

方への公開講座、各種見学対応などに活発な活動を続けております。昨年度は口蹄疫などへの対策から、農場見学をお断りしたこともありましたが、現在は畜舎鶏舎付近を除き見学を可能としています。公開講座としては「家庭菜園の基礎 理論と実際」「食と緑と命の学校」「冬山を歩く」などを企画、開催中です。演習林では新しく五十五馬力のパワーシヨベルを導入しました。演習林の保守のみならず地域の災害対応への出動も期待されています。また生産物販売の促進を図る一環として、学部事務室付近に卵の販売およびストロブ用新予約コーナーを設けました。教職員学生からたいへん好評を得ております。同窓生の皆様も学部へお越しの際はどうぞご利用ください。

農場では三月末日に技術職員神原さんが定年退職されましたが、再任用制度によって本年度も主に蔬菜を担当しています。障害者就労支援の一環として本年度は四名の方が技術職員とともに働いているほか、ボランティア受け入れ制度では三名の方に来ていただいています。今後とも同窓の皆様方のご協力ご鞭撻を賜りますよう心からお祈り申し上げます。

(宮川修二)

◆◆動物病院

各務同窓会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平成23年4月1日より動物病院長を拝命しました山添和明です。どうぞよろしくお祈り申し上げます。

動物病院スタッフの異動に関しましては、7月1日付で内科診療科の大塚准教授が新たに立ち上げられました産業動物臨床学研究室の准教授に配置換えされ、さらに8月1日付で腫瘍科の星野助教が北海道大学に転出されました。これにより現状

では臨床系教員15名にくわえ、動物病院雇用スタッフとして放射線治療システム・管理担当助教1名のほか、非常勤獣医師6名(腫瘍科5名、外科1名)、動物看護師7名および事務職員4名で構成されております。運営に関しては、昨年度の増改築を機に腫瘍科への紹介症例、とくに放射線治療症例が急増しております。また次年度4月ごろより今年度計画中の磁気共鳴断層(MRI)装置が稼働する予定ですので、今後は腫瘍性疾患や中枢神経疾患に対してより精密な診断・治療が実施されることが期待されます。

(山添和明)

◆◆野生動物管理学研究センター

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平成21年4月の改組により誕生した「野生動物管理学研究センター」も3年目を迎え、おかげさまで順調に業績を積み重ねております。

岐阜県におきましても野生鳥獣による農林業被害が深刻化し、本年1月には県庁に「岐阜県鳥獣被害対策本部」が設置されました。この動きとも連動し、今年度も県から2件の新事業(鳥獣害発生要因調査事業委託事業)と「野生動物の保護管理対策委託事業」を受託いたしました。さらには、北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターの「特定共同研究」の課題として、「人獣共通感染症の診断・予防・治療法の開発研究」も採択されました。それに伴い、既存の生息域管理部門と野生動物医学部門に加えて人獣共通感染

◆◆比較がんセンター

症研究部門を新設し、3部門体制で教育研究に取り組むことになりました。上記のように、本センターは岐阜県における総合的な野生動物管理の推進に幅広い観点からの貢献を進めております。しかし、農林業被害のみならず野鳥の高病原性インフルエンザなど、野生動物に関わる諸問題は山積しております。私共は、引き続きこれら諸問題の解決に向け全力を挙げて努力を続ける所存でございますので、同窓の皆様には今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、深くお願い申し上げます。

(鈴木正嗣)

各務同窓会の皆様へ、比較がんセンターの紹介をさせていただきます。本センターは平成22年4月に設置されました。応用生物科学部附属センターとして、フィールド科学教育研究センター、動物病院、野生動物管理学研究センターに次いで4つ目のセンターとなります。本センターは、動物とヒトのがんの克服を目指すのが唯一のユニークな教育研究センターです。構成メンバーは専門分野の壁を取り払い、獣医学を核にして農学、医学、薬学の専門家から構成されています。また、疫学・予防、病理・病態臨床研究の3つの部門があります。

本センターは設置後1年が経過したところですが、動物病院と連携を密にして、がんの診療、教育、研究の進展に努力してまいります。活動内容等については、随時本学のホームページに掲載しますので、閲覧していただければ幸いです。何卒各務同窓会の皆様のご指導とご支援をお願い申し上げます。

(丸尾幸嗣)

# 新任教員のあいさつ

## 神志那 弘明



はじめまして。平成22年10月に獣医臨床放射線学教室の准教授として着任しました神志那弘明と申します。私は平成8年に大学を卒業し、獣医師となり、動物病院でしばらく勤務医として働いていました。当時、最も興味を持っていたのが、画像診断学であり、それがきっかけで30歳になり大学院に入りました。その後、臨床と研究の関心は神経病学に向けて行きましたが、画像診断学への興味は続いています。しばらく離れていた画像の世界ですが、現在は、画像診断の教育に携わることができ、非常にうれしく思っています。研究の方では、変性性脊髄症(DM)という犬の致死性神経変性疾患をテーマとして展開しています。人においても類似する神経変性疾患は多数存

在し、中でも人の筋萎縮性側索硬化症(ALS)という病気は犬のDMと共通点が多い疾患で、治療法の無い、非常に残酷な難病です。このような背景から、現在私はALS研究者、臨床医、病理医と協力し合いながら、DMとALSの両疾患の病態解明を目指して、研究をしています。ALS関係者へすれば、大型哺乳動物モデルとして、DMに大きな期待を持っています。獣医師側としては、ALS研究で蓄積されてきた知識を、DMの病態解明および治療法の開発につなげる大きなチャンスといえます。人医療と獣医療の双方に貢献できる研究成果を出せるよう、精一杯努力していきたいと思っています。どうぞよろしく、お願いいたします。

## 柴田 早苗



平成22年10月1日に動物病院研究室の助教として着任いたしました。私は出身大学も出身大学院も岐阜大学であり、そのうえ岐阜生まれの岐阜育ちです。

そんな私が大学院卒業後、半年間の研究員生活を経て、岐阜大学に教員として戻って働くことができました。これは本当に有り難いことであると思います。今後は岐阜大学に恩返しをすべく、励んでいきたいと決意しております。

私は博士課程在籍中、アトピー性皮膚炎に関与すると考えられているケモカインの転写を制御するシグナル伝達分子を見いだしました。そこで現在は、シグナル伝達分子を標的としたイヌアトピー性皮膚炎の新規治療法の開発を研究テーマとしています。この研究を通して、ステロイドに頼りがちなアトピー性皮膚炎治療に新しい選択肢を加えることができれば、と考えております。そのいっぽうで、外科系教員として、小動物の麻酔を担当しています。これから積極的に経験を積み、「外科手術における緑の下の力持ち」になれるよう、日夜努力していく所存です。さらに、もう一つの研究テーマとして、小動物の麻酔学に関するものを準備中です。日々の診療をヒントにしながら研究展開していきたいと考えております。

臨床系教員は教育・研究そして臨床

## 今村 彰宏



平成23年2月1日付けで応用生物科学部分子生命科学コースに助教として着任

致しました今村彰宏と申します。私の所属は分子生命科学コースではありますが、実質上の立場はiCeMSプロジェクト「WPIプログラム、物質・細胞統合システム拠点(京都大学)」における岐阜大学サテライトの特任助教であります。そのため、岐阜大学においては教育活動よりも学術研究活動に重きを置く立場にあります。WPIプログラムは、日本が世界に誇る先進的研究領域の発展と異分野の学問を融合させた新しい学際領域を構築すべく2007年に発足した国家プロジェクト(iCeMSを含み国内6拠点)で

す。その中で、iCeMSは京都大学を中心として物質科学と細胞科学の両分野を統合した学際領域の創造と発展を目指しています。私が着任した岐阜大学応用生物科学部の木曾研究室はiCeMSに於ける唯一のサテライトラボとして重要な役割を果たしており、その担う責任も非常に大きいものです。従って、掛かるプレッシャーも相当なものがありませんが、与えられた立場、責任が重い分やりがいも強く感じております。

私は元々、岐阜大学農学部生物資源利用学科の出身で、その後農学研究科、連合農学研究科へ進学し、岐阜大学から博士号を拝受致しました。そのため、岐阜大学には人一倍愛着があり、教員という立場になった今、これまでお世話になった恩を少しずつ返していければと思っております。特任(任期付)という性質上、与えられた時間に限りはありますが、その中で精一杯努力し高い志を持って日々精進したいと思っております。まだ若輩の身ではありますが、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

# 教員の異動

## 定年退職

- H23. 3.31 応用生命科学講座 分子生命科学 教授 河合 啓一
- H23. 3.31 応用生命科学講座 分子生命科学 教授 中塚 進一
- H23. 3.31 生物生産科学講座 生物生産流通学 教授 安部 淳
- H23. 3.31 生物生産科学講座 生物生産流通学 教授 今井 健
- H23. 3.31 生物環境科学講座 生物環境工学 教授 天谷 孝夫
- H23. 3.31 獣医学講座 基礎獣医学 教授 小森 成一
- H23. 3.31 生物環境科学講座 生態環境学 講師 芳村 了一
- H23. 3.31 流域圏科学研究センター 准教授 西條 好迪

## 退職

- H23. 4.30 応用生命科学講座 食品科学 助教 後藤 剛 京都大学へ
- H23. 7.31 獣医学講座 臨床獣医学 助教 星野 有希 北海道大学へ

## 昇任

- H23. 4. 1 生物環境科学講座 生物環境工学 教授 西村 眞一 生物環境科学講座 生物環境工学 准教授から
- H23. 4. 1 生物生産科学講座 植物生産科学 教授 松井 勤 生物生産科学講座 植物生産科学 准教授から
- H23. 4. 1 生物環境科学講座 生態環境学 教授 岩澤 淳 生物環境科学講座 生態環境学 准教授から
- H23. 4. 1 応用生命科学講座 分子生命科学 准教授 柳瀬 笑子 応用生命科学講座 分子生命科学 助教から
- H23. 4. 1 応用生命科学講座 分子生命科学 准教授 海老原 章郎 応用生命科学講座 分子生命科学 助教から
- H23. 5. 1 獣医学講座 基礎獣医学 准教授 松山 勇人 獣医学講座 基礎獣医学 助教から

## 採用

- H22.10. 1 獣医学講座 臨床獣医学 准教授 神志那 弘明 岩手大学から
- H22.10. 1 応用生物科学部 附属動物病院 助教 柴田 早苗
- H23. 2. 1 応用生命科学講座 分子生命科学 助教 今村 彰宏
- H23. 4. 1 応用生命科学講座 分子生命科学 教授 岩橋 均
- H23. 4. 1 生物生産科学講座 植物生産科学 准教授 清水 将文 三重大学から
- H23. 4. 1 生物生産科学講座 応用動物科学 准教授 二宮 茂 東北大学から
- H23. 4. 1 生物生産科学講座 植物生産科学 助教 小林 佑理子

## 配置換

- H23. 4. 1 応用生命科学講座 分子生命科学 准教授 上野 義仁 工学部准教授から
- H23. 4. 1 生物環境科学講座 生物環境工学 助教 大西 健夫 流域圏科学研究センター 助教から

各務同窓会報

岩橋 均



平成23年4月1日  
付付け、応用生物科  
学部教授(応用微生物学)

ました。よろしくお願ひ申し上げます。紀ノ川で産湯につかり、学生時代を札幌で過ごしました。学位取得後は工業技術院微生物工業技術研究所に入所、生命工学工業技術研究所、産業技術総合技術研究所で、微生物を中心にヒトに至るまで、環境ストレス応答に関する研究を続けてきました。環境化学物質の影響評価や実験動物の飼育マニュアル評価等、評価と評価系の構築が中心の研究課題になります。ゲノミクスを中心とするOMICS技術を各種の評価系に適用させることを目標に基盤的な研究を続けています。基礎研究には能力不足、実用性のない応用研究はやりたくない、基盤的な研究なら地道にデータを取ればいい、との考えです。一方、最近では、基礎研究の経験が地域産業に生かせる事を知り、地域産業との連携、製品作りに参加しています。梅干、漬物、清酒の殺菌技術開発や実験動物の標準化等を行ってきました。このため、全国に共同研究者がおられ、全国を歩き回っていました。サイエンティストと言うよりはツーリストを自認しています。

人々と、話し、考え、行動し、夢を共有、地域に貢献できる人材を育てたいと考えています。ご協力、お願ひ申し上げます。

清水 将文



平成23年4月1日  
付付け、応用生物科学  
部応用植物科学コー  
スの准教授に着任い

たしました清水将文と申します。以前は三重大学に勤務しておりました。学生の半分近くを三重県津市で暮らしました。お酒とお刺身をこよなく愛する私は、伊勢湾の新鮮な魚で晩酌できる津を大変気に入っております。ところが、着任からわずか数ヶ月で心変わりし、早くも岐阜の虜になつてしまいました。鳥取県の山奥で生まれ育った所もあるでしょう。去る5月に出かけた根尾サイクリングで観た新緑の山々と雪解けの清流の美しさを、そして7月に行った溪流釣りで手に感じた岩魚の魚信、鵜飼観覧船で食べた長良川の鮎の美味しさなど、いづれも私の心を鷲掴みにしました。このような恵み豊かな自然に囲まれた岐阜大学で働けることを大変嬉しく思っております。専門分野は植物病理学です。その中でも、有用微生物を使って作物の病気を防ぐ生物防除法について研究を進めています。環境負荷低減に向けて減農薬が求められる中で、生物防除は世界的にも大変重要な技術となっております。しかし、残念ながら我が国では生物防除法が未だそれほど普及していません。岐阜大学では、生物防除研究に精力的に取り組んでいる数少ない大学のひとつです。私は、本学が日本ひいては世界の生物防除研究の中心となる

二宮 茂



平成23年4月1日  
付付け、応用生物科学  
部応用動物科学コー  
スに准教授として着

任いたしました、二宮茂と申します。専門分野は、応用動物行動学、動物福祉学です。東北大学からの着任です。この時点で必ず話題になるのは3月11日の地震の事です。当時の勤務地は宮城県北部の山間部にあり、津波の被害は免れましたが、その揺れは尋常でないと感じるものでした。ライフラインの停止、特に長期にわたる物流不全からくる食糧や燃料の枯渇は自身の生活に深刻な影響を及ぼし、大規模災害の危険性を体感させられました。避難しながらも、岐阜大学には何とか4月1日に着任でき、担当した講義が動物管理学でした。その講義の中心話題は飼育動物の生活の管理であることから、第一回目の講義では、震災時の自身(人間)の生活の管理がいかに大変で何が重要かを改めて体感した事、また、その重要な要素は動物管理にも通じるものである事を、学生に伝えたのを覚えています。

小林 佑理子

平成23年4月1日付付け、応用生物科学部生産環境課程植物コースの助教に赴任致しました。皆様にご挨拶を申し上げます。

私は平成13年に岐阜大学農学部生物資源利用学科を卒業後、岐阜大学大学院に入学し、当時植物細胞工学研究室の原徹夫教授、小山博之助教授のご指導のもと酸性土壌ストレス耐性機構に関する遺伝学的研究に従事致しました。平成18年に博士課程修了後は、岐阜大学応用生物科学部特別研究員を経て、王子製紙株式会社森林資源研究所にてユーカーリの不良環境耐性を強化する分子改良に関する研究に従事致しました。平成20年からは日本学術振興会特別研究員として(独)理化学研究所バイオリソースセンターにて環境ストレス耐性に関する遺伝学的、分子生物学的研究を行ってまいりました。その間にはアメリカ農務省、コーネル大学に短期留学しアメリカの研究グループと共同研究を実施しながら基礎研究に没頭しました。今後も食糧、環境問題へ貢献したい初心を忘れず研究面でも努力を重ねる所存です。

教員・旧教員の受賞

- 故 名誉教授 島倉 省吾  
従四位(平成22年7月15日)
- 故 名誉教授 石川 達芳  
従四位 瑞宝小綬章  
(平成22年8月8日)
- 石黒 直隆 教授  
平成22年度日本動物学会藤井賞・論文賞
- 猪島 康雄 准教授  
平成22年9月24日
- 安部 淳 教授  
第9次中国物流学術年会優秀論文賞三等賞  
平成22年11月13日
- 大塚 俊之 教授  
第4回日本生態学会大島賞  
平成23年3月11日
- 小山 博之 教授  
第56回日本土壤肥料学会賞  
平成23年4月28日
- 荒幡 克己 教授  
2011年度日本農業経済学会学術賞  
平成23年6月12日

今後教育、研究、組織運営、社会活動など大学全体の重責の一端を担うことになり、身の引き締まる思いです。

最後に、私の生れは中国地方、育ちは近畿地方で、学生時代には東北地方、関東地方でも過ごしました。そして、今回着任した岐阜大学が位置する中部(東海)地方で生活するのは初めてとなります。岐阜大学では、その地域の特性を体感しながら、また、これまでの経験を生かしつつ、特に東北地方でお世話になった方々にいつかは恩返しできるようにお願い申し上げます。



# 退職後の近況

## 新米教員として再出発

河合 啓一

各務同窓会の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

退職後、東海学院大学健康福祉学部食健康栄養学科にて学生の教育・研究指導を行っております。本学の前身は東海女子大学で、男女共学化に伴い平成19年4月東海学院大学に改名、四年制大学として今年で30周年を迎えております。緑豊かなキャンパスで教育・研究活動が続けることができ、充実した日々を過ごしております。

過日には、農学部及び応用生物科学部の応用微生物学研究室同門会を開催していただき、参加された卒業生の方々と楽しいひと時を過ごさせていただきました。往時を思い出しながら、心ゆくまで談笑させていただきました。30年有余の岐阜大学での教員生活を振り返ることができました。

末筆ながら、応用生物科学部及び各務同窓会のご発展、並びに会員各位及び教職員の皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、永年に亘るご指導、ご支援に感謝申し上げます。

## 第二の研究者人生を楽しむ

長良サイエンス(株) 中塚 進一

岐阜大学の定年退職を機に、かねて

より創業、兼業していた小さなバイオ企業を線船橋バス停の北側に移転して社長業と共に充実した研究生活が続いている。大学では学生・院生等の構成員のほぼ全員が数年で卒業するが、社員はいつまでも研究に没頭できるので強力な研究集団となっている。商品は大学、企業の基礎研究に欠かせない食品・漢方薬由来の約200種類の研究用試薬で、その大半は世界初商品。最近では薬品、食品企業から受託精製・糖鎖合成等を依頼される事も多く、絶好の腕試しの機会になっている。お蔭で定年退職後も忙しく、また岐阜大学の大学院生が頻繁に出入りしてくれるので非常に充実した第二の研究者人生を楽しんでいる。局方用高純度試薬をはじめとしたハイテク商品とそれに関連したバイオ・ナノテク産業等で研究を楽しみつつ地域の発展に努力しています。

## 退職後の近況報告

今井 健

この3月の定年退職に際しましては、多くの方々に励ましのお言葉を頂き誠にありがとうございました。退職後の過ごし方を考えるまもなく、あらたに設立された岐阜大学のキャリアセンターの特任教員に5月から再任用され、キャリア・コーディネーターとして勤務しております。「キャリア教育」や「学生の自主的なキャリア形成支援」は大学にとっては新しく必要とされて

いる教育課題であります。近年の学生の就職環境は、非正規雇用者の増加だけでなく、正規雇用されても就職直後の離職率の高さにみるように不安定化しており、日本経済が発展していた時代とは大きく変化しています。それだけに学生には岐阜大学の卒業生としてふさわしい学力だけでなく、人との積極的な交流の仕方、困難な状況を自ら打開していく知恵と行動力などを身につけることが求められています。先輩社会人として活躍されておられる各務同窓会の皆様方に、在学生の「キャリア形成支援」のために是非ご協力をお願い申し上げます。

## これからのモンゴルと私

天谷 孝夫

同窓会員の皆様には、益々ご清祥にてご活躍のこととお慶び申し上げます。退職後の近況をとのご指示でありますので、皆様へのご挨拶と合わせ申し上げます。思い起こせば、42年間の教員生活はただただ忙しく通り過ぎてしまったのが実感です。その上、退職日直前から今に至るまで、義父母の長期入院並びに介護のために出かける家内との半別居状態が続いておりますが、この頃はようやく小康状態となり今後の生活について方向性を見いだせるようになりました。

そこで、先ずはこれまでの海外調査経験をとりまとめる作業をようやく開始した矢先、岐阜大学水環境リーダー育成拠点形成プログラムのご支援を得て、8月末から2週間にわたりモンゴル国へ出張させて頂くことになり喜んでおります。モンゴル国は、私にとりて教員生活の初めから取り組んだ研究対象であり、その豊かな自然環境が何よりの資源だと思えます。同国としても、資本主義の論理のままに環境破壊が激増していますが、その救いは日本の4倍の国土面積にわずか270万人程度が居住し、しかも全て同じモンゴル人であることだと考えます。将来にわたるモンゴル国の自然環境が保全され続けることが、地球全体にとつても極めて重要な課題であることは論を待たず、ここに日本人が果たせる大きな貢献の場があると信じます。皆様の大きなご理解を頂戴できれば幸いです。

## 定年人生のはじまり

小森 成一

在職中のストレス・過緊張から解放され、さわやかな気分です仕事や家庭や趣味・交遊など各方面で定年人生を始めます。仕事としては現在のところ、専門学校と放送大学と本学岐阜大学の非常勤講師として薬理学関連の講義をしております。また、本学において、この度採択された文科省公募事業「産業動物臨床実習支援システムの構築」のコーディネーター(特任教員・3年間)ならびに継続中の科研費研究の研究代表者(次年度末まで)も務めています。家庭面では、時間的・精神的にゆとりをもって父をお世話してさし上げたい

との定年前の思いを、いま家内の協力のもとで実現中です。父と過ごすんびりゆったりとした時間に安らぎを覚えていきます。趣味の面では、これまで長年の夢であった鮎の友釣りを行いよいよ始めました。6月〜9月のシーズン中は、手ほどきをしてくれた竹馬の友と青空のもと長良川の清流に竿を出しています。交遊面では、小中学校時代の幼なじみのグループ、大学時代からの友人、職場で得た同じ団塊世代の親友(教員)とそれぞれ旅行や食事会などで楽しい時間を過ごしています。こうした仲間とのお喋りでは歴史や哲学、趣味、時事問題など話題が多岐にわたり、私にとって耳学問の絶好の場でもあります。人生で最も身近な友人である家内とも旅行などに出かけています。こんなところが、定年人生一年目の様子です。

ところで、夫が定年退職すると家庭にいる時間が長くなるため、それが原因で妻は「主人在宅ストレス症候群」に罹って体調を崩したり、夫婦仲がおかしくなるケースがあるとのこと。そのため、我が定年人生にあたっては、愚妻の日常の行動・活動に対して邪魔や干渉をしないといった「やさしい無関心」を掟のひとつにしています。最後になりましたが、同窓の皆様には、益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



# 退職記念事業 終了の報告

## 「中塚進一教授退職記念」 事業報告

食品生命科学課程分子生命科学コースの中塚進一教授は平成23年3月31日をもって定年退職されました。

最終講義は、平成23年2月4日（金）15時より101番教室にて「定年を迎えて 有機化学を楽しむ―研究人生の中間報告―」と題して執り行われました。平日にも関わらずお忙しい中、現教員・学生はもとより遠方からも多数の卒業生にご参加いただき盛大な最終講義となりました。

また、同日18時半よりグランヴェール岐山にて定年退職記念祝賀会が開催され、名古屋大時代の卒業生から在校生に至る約60名のご参加をいただき、また所用の為やむなく欠席の方々からもお祝いの言葉と記念品料のお心遣いを賜りました。先生には卒業生一同よりお祝いの品としてペアウォッチを贈らせていただきました。ご協力いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。

ご退職後は、ご自身が創業された長良サイエンス（株）で活躍されております。中塚先生のますますのご健勝とご多幸をお祈りしまして、事業報告とさせていただきます。

（柳瀬笑子）

## 「安部淳教授退職記念」 事業報告

生産環境科学課程応用植物科学コースの安部淳教授は平成23年3月31日をもって定年退職されました。

記念事業としては、平成23年2月10日（木）102教室において「食糧・農業問題と東アジア」と題する最終講義が行われました。現職の教員、学生はもとより、卒業生や研究を通じて交流のあった方々も列席され、約70名の参加を得て最終講義が行われました。

講義の前編では、農業問題研究の方法・分析視覚、価値・価格分析視覚と資本主義の農業構造問題について話をされ、後編では東アジア農業なかでも日・中・韓の3国を対象として、農業問題から食糧問題へ、東アジア農業論―風土・Food、世界食糧危機と日本、PPP参加問題について話を進められました。また国際農業教育を通じて国際感覚を有する学生を育成されたことや、東アジアの国々から多数の留学生を受け入れて実施された教育と研究の歩みについてもふれられました。

講義終了後は会議室にて茶話会が開催され、安部先生を囲んで今後の食糧・農業問題についても熱い語りがあり、親交を深めることができました。また、同日の夕刻より魚民において卒業生を対象として退職記念交流祝賀会が多数の参加で開催され、旧交を温め合うことができました。

現在は、内モンゴル師範大学の客座教授などを継続して務められており、引き続き国際交流などにも貢献されており、安部先生の益々のご健康とご多幸をお祈りして、退職記念事業報告とさせていただきます。

告とさせていただきます。

（荒井 聡）

## 「今井健教授退職記念」 事業報告

生産環境科学課程応用植物科学コースの今井健教授は平成23年3月31日をもって定年退職されました。

記念事業としては、平成23年2月10日（木）102教室において「岐阜農業研究15年を顧みて」と題する最終講義が行われました。現職の教員、学生はもとより、卒業生や農業研究を通じて交流のあった地域の方々も列席され、約100名の参加を得て最終講義が行われました。

講義では、まず長年にわたる農業経済研究の歩みから、経済発展と農業―農家の兼業化問題―についてふれられ、農業復権の背景と新しい視点について提示されました。それをふまえ、岐阜県農業の強みと可能性として、高品質な農産物の生産と供給、野菜産地を支える法人経営、新しい「集落営農」活動、農産物の直売活動の4点にわたり、具体的事例を交えて展開されました。さらに、中国・スリランカでの農業研究と留学生教育の足跡についてもふれられました。

講義終了後は会議室にて茶話会が開催され、今井先生を囲んで今後の地域農業研究の課題などについても熱い語り合いがあり、関係者同士も親交を深めることができました。また、同日の夕刻より魚民において卒業生を対象として退職記念交流祝賀会が約50名の参加で開催され、旧交を温め合うことができました。

現在は、岐阜大学キャリアセンター

特任教授として学生のキャリア形成に関わるお仕事に従事されています。今井先生の益々のご健康とご多幸をお祈りして、退職記念事業報告とさせていただきます。

（荒井 聡）

## 「天谷孝夫教授退職記念」 事業報告

生産環境科学課程環境生態科学コースの天谷孝夫教授は平成23年3月31日をもって定年退職されました。

記念事業としては、平成23年2月1日（火）101番教室にて「干拓地から乾燥地までの42年間」と題する最終講義が執り行われました。現教員や学生はもとより、近隣のみならず遠方の府県からも多数の卒業生が駆けつけ、100人を大幅に超える盛大な最終講義となりました。講義では、先生のご郷里である大津市の名所旧跡と近代史との関わり合いのご紹介に始まり、岡山大学赴任中に行われた笠岡湾干拓地の除塩問題に関する調査研究、続いて、岐阜大学赴任後にも継続して実施された、中国内モンゴルやモンゴル国を始めた、とする農牧業の諸問題に関するご研究についてお話しされました。我が国の干拓地の除塩問題を契機に、乾燥地や半乾燥地の塩類集積の問題に取り組み、さらには複雑化する社会情勢と変動する気象条件下で水需要が次第に逼迫する中で、変化あるいは衰退を余儀なくされる農牧業の実態について、中国に何度も足を運ばれながらご研究を進められたこと、またそれを通じて、農業問題を社会的あるいは国際的な視野から思考できる優秀な人材を育成し、社会に輩出されたことなどが伺わ

れる内容でした。

講義終了後は会議室にて茶話会が開催され、天谷先生を数多くの卒業生や留学生らが囲んで、懐かしい話や近況報告に花が咲きました。また卒業生や関係者から数多くの花束贈呈があったことも印象的でした。

今後は、ご趣味であるモンゴル史や東洋史の本を読みながら、まだまだ中国やモンゴル国にも足を運ばれることと存じます。天谷先生のますますのご健勝とご多幸をお祈りしまして、退職記念事業報告とさせていただきます。

（西村直正）

## 「小森成一教授退職記念」 事業報告

獣医学課程獣医薬理学教室の小森成一教授は平成23年3月31日をもって定年退職されました。

記念事業として、平成23年2月4日（金）、応用生物科学部101番教室にて「岐阜大学生生活40余年―私のお宝談義―」と題した最終講義が執り行われました。教員および学生はもとより、遠方からも卒業生が多数駆けつけ、盛大な最終講義となりました。講義では、岐阜大学におけるこれまでの教育・研究生活について、先生の宝物と言える4つの話題を交えて紹介され、これまでの最終講義とは一味違う趣向を凝らしたものでした。講義終了後は会議室において茶話会が開催され、小森先生を囲んで昔話に花が咲きました。

また、4月29日（金）には、名古屋キャッスルプラザにて退職記念祝賀会と薬理学教室創設40周年記念祝賀会を合わせて執り行いました。多くの卒業生に参加をいただき、

卒業生に

史を振り返りながらの酒宴は大いに盛り上がりました。

先生はご退官後も非常勤講師として、また、科学研究費補助金の研究代表者として、しばらくは岐阜大学に来ていただけていることになっています。先生のご退官に際し、これまでの情熱あふれる教育・研究姿勢に改めて敬意を表するとともに、今後の益々のご活躍を祈って止みません。

(海野年弘)

### 同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年一回、優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で平成十九年度に設立されました。平成二十二年度も、各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学部および応用生物科学研究科の学生の中から、次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

#### 受賞者

- 食品生命科学課程 小嶋 章宏
- 生産環境科学課程 時澤 睦朋
- 獣医学課程 赤羽 真理恵
- 資源生命科学専攻 大野 正記
- 生産環境科学専攻 小笠原 利恵

#### 小嶋 章宏

この度は各務同窓会長賞をいただき、大変嬉しく思います。このような素晴らしい賞をいただくことができたのは、大学での先生方や友人、家族からの大きな支えがあったためだと思います。この場をお借りして心より感謝致します。

岐阜大学での4年間の生活で、専門分野における知識や掛け替えない友人に至るまで、素晴らしいものをいくつも得ることができました。本当に充実した毎日であったと思います。

今後の岐阜大学大学院での生活では、さらに深い知識と経験を身につけることで、社会に貢献できるような人物になれるよう、精進したいと思っております。

#### 時澤 睦朋

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞をいただきありがとうございます。このような賞をいただいたのは、お世話になった先生方や友人、家族の大きな支えがあったからだと思っております。心から感謝いたしております。

岐阜大学での4年間はつらいことや苦しいこともありましたが、とても楽しく充実したものでした。

大学を卒業したというだけで、まだ何も成し遂げてはいませんが、大学4年間で得たものを活かしてこれからの人生を自分らしく歩んでいこうと思っています。

本当に素晴らしい賞をいただき誠にありがとうございます。

#### 赤羽 真理恵

この度は、同窓会長賞という栄誉ある賞をいただき、大変嬉しく思っております。岐阜大学で過ごした濃密な6年間、獣医師に必要な知識と素養を先生方から教えていただいたことは勿論のこと、尊敬できる恩師や同じ志を抱く友人に出会えたことが、私にとって何よりの収穫でした。

恩師や友人、家族など多くの人の支

えにより、今、獣医師としての道を歩き出すことができいております。これから先、様々な障害が立ちほだかり、道でつまずくことも多々あると思いが、岐阜大学で過ごした日々を思い出しながら、己を研鑽し続け、ゆっくりと確実に歩みを進めて参りたいと思っております。

#### 大野 正記

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞を受賞させていただきました。大変光栄に思っております。思い返せば研究室に配属されてからの3年間、大変貴重な体験をさせていただいたように感じています。研究が思うように進まず頭悩まされる日々ではありましたが、今私が研究を生業として社会の第一線に立っていただけるのも、この研究生生活を支えてくださった先生方、先輩、後輩、友人たちのおかげであると考えております。この貴重な研究生生活を誇りとし、教えていただいたことを忘れぬよう日々精進してまいりたいと思っております。

#### 小笠原 利恵

この度は同窓会長賞をいただき誠にありがとうございます。大学院で充実した生活をおくることができたのは、熱心に指導してくださった先生方、共に悩み助け合った先輩方や後輩、家族の大きな支えがあったからであると感じています。研究の楽しさや面白さ、難しさや辛さだけでなく、研究者としての考え方や、2年間で得ることができた多くの知識と貴重な経験を活かせるよう、これからも日々精進し頑張っていきたいと思っております。

## 吉寄基金

### 『宝探し』に お付き合ひ頂き...

#### 中村 浩平

私は、C19吉寄清己研究支援金(第4回)のご支援を頂き、「鉄酸化物利用型嫌氣的メタン酸化微生物の探索—地球科学的機能と微生物燃料電池利用への可能性」について研究を行っています。

メタンはCO2に次ぐ、温室効果ガスです。一方国内では石油、石炭に次ぐエネルギー源として利用されており、諸刃の剣といえる性質を有します。

地球上のメタン循環において、微生物の役割(生成と酸化)は大きく、無酸素(嫌氣的)環境でメタンを酸化する微生物が、近年特に注目されています。その中でも鉄酸化物を利用する微生物については、その存在すら明らかではありません。

私はこの微生物の探索を行っています。その発見は地球上の新たなメタンフラックスを見出す、地球科学的の大発見に繋がります。更に、その微生物を利用した、都市ガス(メタン)微生物燃料電池の可能性も考えられます。『宝探し』のような本課題に対して、吉寄様にはご理解とご支援を賜り本当に感謝しております。未

### C19吉寄清己研究支援寄附金の今年度受領者

第5回吉寄清己研究支援寄附金は、今年度から、奨励研究と一般研究に分けて募集いたしました。一般研究は、鈴木徹教授の「ヒト常在細菌と健康に関するゲノム生物学的研究」に、奨励研究は、中村浩平助教の「鉄酸化物利用型嫌氣的メタン酸化微生物の探索—地球科学的機能と微生物燃料電池利用への可能性」(継続)に決定しました。なお、吉寄氏は6月1日の創立記念日に来学され、研究支援金受領教員らと親しく懇談されました。この多大なる研究支援に対して、厚く御礼申し上げます。なお、吉寄氏は、同日、学長より功労者表彰を受けたことを申し添えます。

(応用生命科学課程 高見澤一裕)

# 支部会員からの便り

## 会員は喜寿の岐山会

去る5月17日、18日、長良川畔の十八楼で第31回岐山会を開催した。

岐山会は、旧農学部を昭和33年3月に卒業した6学科190名の同期生の会である。岐阜を出て20年余後に発足した。

第1回は、解体前の階段教室、九二八ガーデン等を散策して、旧農学部講堂で130名余の参集を得て総会を開いた。その後、バスを連ね、黒野の新校舎を見学、長良川のホテルで懇親会を開催した。

当初、下呂、鳥羽など温泉地、琵琶湖周航、鳴門の観潮などの観光地、また京の料亭などで開催したが、幹事の負担が大きいので、数年前より十八楼とした。3年前は、卒業50周年の記念大会を開いた。

今年も東は千葉、富山、西は香川、広島などから45名が参加した。内訳は、農科12名、林科5名、化学5名、獣医8名、土木11名、総農4名である。昨年

は39名であった。今年は先ず、東日本大震災に黙祷を捧げ、総会、懇親会に入った。

岐山会は、例年5月に総会、11月に各科より役員を含め2、4名の参加を得て幹事会を開いている。

今年も旧制高農の校歌、凜真寮歌を声高らかに斉唱して散会した。

喜寿を迎えた会員諸兄よ、来年の岐山会も元気な姿で多数の参加を望むものである。

徒らに 馬齢を重ね 喜寿の秋 岐山会幹事一同

## 愛知各務会の紹介

金丸 行雄 (E大11)

もともと愛知県農地(農業土木)関係には愛知県各務会があり、現職、OBとも一体の会であった。平成14年度から現職とOB関係を分離し、現職は愛知

県各務会、OB関係は愛知各務会とした。

愛知各務会の会員は岐阜大学(前身校を含む)を卒業し、愛知県(農業土木職等)を退職した者、愛知県土地改良事業団体連合会(以下「土連」という。)に在職中または退職した者で構成される。

会員数及び主な行事(H23年4月時点)は次のようである。

会員数 55名  
(県OB46名、土連現職8名、土連OB1名)

役員数  
会長、会計始め11名  
主な行事  
総会  
(毎年5月中下旬に開催)  
懇親会  
(毎年11月下旬に開催)  
役員会 年2回

総会は愛知県各務会と同日に開催し、懇親会は合同で行い、立食パーティーの席で相互の懇親を図っている。この席には毎年岐阜大学から小林(満)名誉教授に御出席を頂いている。

H23年は5月21日(土)に行われ、大学からは西村(直)准教授に御出席を頂き、大学の近況等について御報告を頂いた。又、小林(満)名誉教授にもユ

ニークな御挨拶を頂いている。今年は、新人二人に対して「頭首工」の名称の由来を質問され会場を沸かせていた。

秋に行う懇親会は文字通りの懇親のみを目的とした会で会員同士の親交を深めている。大変リラックスした会でありカラオケ等で時間の経つのも忘れる様な楽しい会である。

会員の状況等はこうした年二回の行事を通じて把握するほか、役員が各々約5名程度受け持ち随時、極力把握するよう努めている。

このほか、会としての位置づけは無いが各務会のゴルフコンペ(参加人員約20名程度)を年4回行っている。また、どうさん会(主に元、現役員で構成)という懇親会も二ヶ月に一度岐阜市内において行い先輩、後輩の親交を深めている。

本会も年々高齢化が進んでおり従来通りの行事、開催では高齢者の出席も難しくなることからどう対応していくかが今後の課題と考えている。また、各務会関係の発展のためには優秀な人材を愛知県ならびに土連に送って頂くのも必要であると考えています。

終わりに、母校のますますの

発展を祈念致しまして紹介とさせていただきます。

## 広島・2つの世界遺産 そして発見

岐阜大学各務同窓会広島支部  
事務局長

村田 憲治 (E大29)

本年も昨年と同じ広島市内で支部会を開催することができました。広島支部員が継続して集うことに意義があると思いますので、欠席されていた方も「よし、久しぶりに顔を出してみようか。」と思ってくださいれば幸いです。遠慮なく、次回はこちら



各務同窓会報

加ください。よろしくお願ひします。代表委員会報告、観光PRビデオなど、とても楽しい懇談会でした。

ここで全国の皆様に広島の魅力について、少しご紹介いたします。海外から観光客も多い宮島や原爆ドームなどがあり、昔から「神の国」として崇められてきた宮島は、美しい瀬戸内海に浮かぶ歴史とロマンの島。厳島神社の華やかな社殿や、朱塗りの大鳥居が紺青の海と島の自然に見事に調和して平安調の優雅さを醸し、宮島水中花火大会など夏の花火も注目です。今年8月、宮島水族館「みやじマリン」がリニューアルオープンしました。

興味のある方、お子さん、お孫さんも楽しさいっぱいで。そして、平和都市ひろしまを象徴する原爆ドーム。これらは、足を運ぶたび深い感銘を刻む世界遺産として名高い人気スポットです。歴史ある風情を残す酒蔵を巡ったり、音戸の瀬戸など、穏やかな島々の風景も魅力。毎年、5月に3日間行われる「フラワーフェスティバル」は、ゴールデンウィーク最大イベントと言えます。広島お好み焼や、もみじ饅頭といったご当地グルメも豊富で、5月から10月は、アサリ。11月から翌年2月は、カキが必食。新鮮な身に、濃厚な磯の香りが詰まっています。秋期のマツタケ収穫量は、全国的にも豊富などころです。

皆様、ぜひお揃いで広島観光にきんさい。

各務同窓会

岐阜県高等学校

支部から

平岡 雅憲 (C大23)

岐阜県高等学校支部は、各務同窓会員で、岐阜県内の高校、特別支援学校、教育委員会に勤務している者、または勤務した者で組織されています。主に農業を担当する教員、理科教員であり、現在会員数はOB85名、現職82名です。OBは、県内の大学や専門高校、高校で引き続き教えている方、社会教育に貢献している方など大変元気に活躍されています。一方現職は、岐阜県の農業教育、高校教育の発展に頑張っており取り組んでいます。



本年度は、幹事校が大垣養老高校であり、総会、懇親会を7月2日(土)にホテルグランパール岐山で開催しました。皆出席の山川充夫先生はじめOB8名、現職23名の31名の参加者がありました。総会では、会務報告、来年度役員の出選がなされ、現会長恵那農業高校校長平岡雅憲から、岐阜農林高校高畑清樹校長を会長に承認、農業で2名、理科で2名の新入会員の

紹介がありました。支部のさらなる活性化のためには、優秀な生徒を育て、母校へ入学させ岐阜県の教員として活躍してくれることが期待されています。また、来賓として応用生物科学部から生産環境科学課程の宮川修一教授、土井守教授にご臨席いただき、大学の最新情報をプレゼンテーションでわかりやすく説明していただきました。

懇親会では、現職、OBの先生方と近況報告や交流ができ、那加、長良旧キャンパスでの懐かしい思い出に花が咲きました。最後は凜真寮歌、校歌を全員で歌い学生時代を偲び、来年度多くの会員が集まることを祈念し閉会としました。

北海道支部便り

北海道支部長

増田 博昭 (E大15)

今年度より支部長を拝命しました増田博昭(E大15)です。今後とも宜しく御願ひ致します。

さて、北海道支部には現在74名の方が名簿に名を連ねており

ますが、まだ支部の存在を知らない方々もいらっしゃるのではと思っておりますし、支部会員の増加を願っております。会員の居住状況を見ますと、札幌市を中心とした道央に53名、旭川市を中心とした道北に2名、室蘭市などの道南に5名、帯広市などの道東に14名となっております。札幌周辺に多くの会員がいる関係で、年1回の支部総会は札幌で開催しています。なお道東方面には約2割の会員がいますので、新年度より道東方面に1名幹事を配置し、会員の連絡調整がスムーズにできるようにしました。それでも道東の別海町や道南の江差町から札幌まで来るためには時間と経費がかかるため、何とか遠隔地の会員のために行動を起こしたいものだとも思います。

母校から農学部が消えて久しくなりますが、今回の大震災による東北方面の農業の壊滅的な被害や環太平洋自由貿易協定(TPP)をめぐる北海道農業への影響などを考えますと、農学が今まで以上に脚光を浴びる時代ではないかと思われ

ます。北海道には全国と同じように担い手不足による遊休農地が数

多くあります。東北方面で被災された農家の方などを北海道が積極的に迎え入れ、それらを微力ながら支部の会員がフォローできるような組織になれたらと夢を見ております。

## 私の過去・現在 そして未来

岡山県支部長

松本 兼治 (V大14)

卒業と同時に「岡山県」に奉職、三七年間勤務し退職後「団体役員」として四年間勤務。定職から開放(大げさ?)されて四年余りの現状です。

現在、私が「心がけている」幾つかについてお知らせします。

① 現役在職中も努力しましたが、職場OB会をはじめ同窓会・趣味の会・地域の会その他案内がありましたら可能な限り出席する事。とりわけ酒席を伴う会合は重視します。

② 「健康」に生きる、「健康状態」を維持する事は、全ての源です。加齢に伴いその重要性を痛感しております。今までの

気ままな生活を猛省しつつ、自分のリズムで継続的に「一日約四〇分の散歩」と「暴飲暴食」の防止(さすがに過去の事となりましたが)の実践に努めています。

③ 自分の趣味・生き甲斐の実践を大切にしています。何を、何処で、どうしようと自由ですが、私は「公民館」を活用しています。今まで知らない地域のひとの「ふれあい」ができません。新たな友人の発見もあります。何より、利用料金が、きわめて安価である事は「年金生活者」には魅力があります。

④ 時間はかなり自由になります。人に迷惑かけず、好きな事をすればよいと思います。「ボランティア」活動を勧めます。おおげさに考えず、出来る事からする事が肝腎です。老人会の役員、町内会手伝い、通学児童の見守り活動等いくらでもあります。要は「気持ち」が大切だと思います。

⑤ 人生の大半は終了してしまっています。残余の時間は、許される範囲で「今までしたくても出来なかつた事」に挑戦(これも大げさ?)する事、心残りのない人生とするためにも最重要です。具体的にはこれから熟考しては

どうでしょうか?一人よし、二人よし、宿題とします。実践あるのみです。最後に今から、心掛けている事があります。人生を終えるにあたり「ピン・ピン・コロリ」でありたいと。

終わりに当たり、最近、大学の同期生の名古屋での葬儀に参列した親友の挨拶状の一節を披露します。葬儀は、息子さんを喪主に、ご家族の温かさ、助け合いの話など、すばらしい内容との事でした。親友の実感に改めて感銘しました。「逝つてしまつたらおしまいです。我々は今後ともそんな良い人にはならず、憎まれない程度で長生きしましょう」と。

## 岐阜支部からの便り

支部長

水野 隼人 (C大15)

梅雨の晴れ間の6月末、支部総会をひらきました。

今年の総会は大学キャンパスで行い、景山幹事長・後藤同窓会会長のご参加も得34名の参加で楽しく開催することが出来ました。

岐阜キャンパスでの開催ははじめてのことでした。

私たちの支部も若い会員が少なく、特に名簿掲載会員と会費納入会員のアンバランスという現実があります。

卒業から時が移り、新しい場所・新しい学部の名称のなかで、会の魅力を作り上げる役割が課せられています。

そこで今回、黒野キャンパス統合後初めて訪れる会員もいる中、大学・学部が今の時代に求められる姿に大きく変化してい

ることを会を通して確認しようということを目的の一つにしました。

景山先生のご案内と丸尾先生の動物病院のご案内は、参加者一同大きな驚きと、大学の地域社会への貢献のさまを見せて頂きました。

この見聞と久しぶりの再会に花が咲き時間を忘れるほどでした。

日曜日にかかわらず、ご協力頂いた皆様に感謝すると同時に懇親会を盛り上げて頂いた生協食堂の皆さんにお礼を申しあげます。

なお当日、会員である白橋国弘氏が地方自治功労をもって旭日中綬章を受けられ、皆さんと共に祝いしたことをご報告します。

## 兵庫県支部だより

\*会員の受賞

権藤眞禎 (V大8)

(社団法人兵庫県自然保護協会 副理事長)

農学部獣医学科 解剖学専攻

昭和35年卒業

兵庫県の野生動物保全の活動



各務同窓会報

から本年3月、兵庫県知事から環境功労賞を授与されました。

**\*受賞の理由**

1・社団法人兵庫県自然保護協会副理事長として野生生物保全の活動をしており、特別天然記念物オオサンショウウオの生息環境保全に尽力し、一般市民への啓蒙活動や観察会などを実施している。

2・兵庫県環境審議会動物部門部会長の職としてクマ保全対策の助言やシカ、イノシシ、アライグマの農業被害対策などの意見を具申ししている。

3・兵庫県動物愛護協会副理事長としてペット動物の安寧を保持するため兵庫県の協力のもとに適正な飼育指導の広報、表彰を行なっている。

**権藤 眞禎 (V大8)**

**大先輩との出会い**

神戸市職員に職を得られたのは兵庫県庁農林部におられた山田喜八氏と衛生部の丹田欣二氏や神戸市衛生局の飯島猛先輩の指導によるものです。岡田義正、久保昌秀弘と3人が合格できましたが、この3人と先輩3人が各務同窓会神戸支部の始まりでした。

その後、先輩諸氏の兵庫県庁の同窓会と神戸市役所の同窓

会とを合体して兵庫県支部が発足し、毎年親睦と情報交換のための会合を持ち、現在のように300人を超える支部となったのは夢のようです。

世の中のニーズに従い狂犬病予防行政から乳肉、環境問題の職に移動、最後に希望していた動物園に転じ、全国の動物園に従事する同窓生と連携を深めることが出来たのも、凛真寮で同じ釜の飯を共にしていた先輩、後輩諸氏が東京都上野動物園、阪神甲子園パーク、大山モンキーセンター、名古屋動物園や豊橋動物園の獣医師としての職におられ、教えをいただけたことが大変ラッキーでした。

兵庫県の会員は教職員から農業、林業のほか乳業関係、一般企業と多くの方面で活躍しています。関西での岐阜大学卒業生の活躍も報じられる今日、後輩の皆様方のニュースを目にしたときは新制大学発足60年の歴史から多彩な卒業生が各界で活躍しておられる事を誇りに思っています。

**獣医師としての**

**社会とのかかわり**

阪神淡路大震災のときも兵庫県、神戸市の獣医師と開業獣医師の仲間の皆様とボランティア

の方々と飼い主を失ったペットの救出と保護のシェルター建設と保護活動をしました。今回の東日本のペット保護にも当時の兵庫県の活動が生かされています。

現在、多くの同窓生が兵庫県民や神戸市民の公衆衛生の安全を守る職で頑張っています。今後、後輩諸君が兵庫県や神戸市の職に従事されることを切に希望しています。

**思い出すことごとくも**

富山県支部長

**温井 喜彦 (A大8)**

入学時、瑞天寮と凛真寮の二つの寮があり、私は凛真寮へ入った。

昼間、講堂で農学部長も出席されて入寮式があった。

その夜のことである。瑞天寮生と凛真寮生の交流と懇親を深めるとかで、「凛真寮生は、今晚、全員瑞天寮で泊まること」と、寮長のお達しがあった。

夜も更け、深い眠りについたら、突如、廊下をけたたましく、バケツをたたいて「火事

だ、起きろ」とたたき起こされた。窓を見ると真赤な炎が映っていた。慌てて玄関を出たところを、ホースで冷水を浴びせられた。ファイアストームである。怖い4年生の寮長が言った。「昼間の入寮式は形式で、これが本当の入寮式だ。これだ。君たちは晴れて寮生になったのだ。」

まさに洗礼を浴びたのである。また、1年生の時、馬術部へ入った。カッコよく障害飛越をしたかった。

上級生は早朝から外乗(遠乗り)をしていたが、1年生は洗馬など馬の世話をさせられ、遠乗りなど勿論させてもらえなかった。当然のことである。

ある日の夕方、馬場周辺で放し飼いにして草を食んでいる馬を厩舎へ入れるため、轡を持って恐る恐る馬に近づいた。その時である。いきなり、馬がくるりと回って、後足で思いっきり蹴られた。下半身の太ももをかすめて、バーンと、家畜病院のモルタルの壁を直撃した。まさに間一髪、紙一重であった。何事かと、中にいた獣医学科の教員や学生が一斉に窓を開け、身をのり出してのぞいた。まとも

に直撃されていたらと思うと、今でもぞつとする。

死に馬に蹴られるというが、馬も人を見ているのである。その事があって、馬術部をやめた。いずれも、55年前の出来事である。

**平成二十三年年度  
岐阜大学各務同窓会  
愛知高校支部総会の  
開催について**

藤井 和弘 (MA10)

平成二十三年六月十八日(土)各務原市の「なまずや各務原分店」にて定例の愛知高校支部総会を開催いたしました。

当日は、二十四名の同窓生が集い、また、岐阜大学からも高見澤一裕教授(応用生物科学部応用生物科学科応用生命科学課程)のご臨席を賜りました。総会では、高見澤先生から大学の近況報告並びに平成二十二年度活動報告及び平成二十三年支部長の選出と当番校の決定を行いました。

懇親会では、最近の大学の話



題、柳戸校舎への移転当時の苦勞話、旧農学部の子木木造校舎の思い出さらに各自の近況報告に花が咲き「アツ」という間に二時間余りが過ぎたような楽しいひとときとなりました。懇親会の終わりに昭和三十三年農学科卒業の小川先生の発声の元で「校歌と凜真寮歌」を大合唱しました。出席者の半分以上が柳戸校舎出身者で、この総会でしか口ずさまない歌詞にもかかわらず、声高らかに歌え終え、同窓の絆を高めることができました。

最後に愛知高校支部の運営につきましてご協力いただきまし

た同窓会本部を始め同窓生の皆様方に厚く御礼申し上げます。もに、今後ともご指導・ご支援を賜りますようお願いいたします。

なお、本総会は六月の第三土曜日に開催していますので多数の参加をお願いします。

## 茨城支部会員の被災状況について

茨城支部

古賀 清司 (E大10)

今回の茨城からの支部便りは東日本大震災に関する話題に尽きます。

まず、この震災で犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈りいたします。

東北三県の想像を絶する被災状況は、テレビ等を通じ皆さんご承知のとおりですが、福島県に隣接する茨城県におきましても、東北三県と比べますと規模は小さいとはいえ海岸部では高さ4〜5メートルの津波が襲い、低湿地では地盤の液状化、家屋や公共施設の損壊、農地農業用施設の損壊など、広範囲に

亘り過去最大規模の被害を被っております。

同窓会本部におかれてはこのような状況を察知され、代表委員会の開催に先立ち、幹事長名の書状で震災の被災見舞いと、あわせて被災状況と代表委員会開催案内発送の是非についての問い合わせをいただき、更に代表委員会の席上で被災に関する会員の動向等について、岩手支部代表の方々に続いて当支部にも説明する機会まで与えていただくなど、諸々のご配慮をいただきました。本紙上をお借りして感謝いたします。

本県内の被災状況のうち、家屋被害状況は、6月にご説明した時点より増え、8月時点では家屋の全半壊は約2万1千戸、一部損壊は15万1千戸に達しております。

このうち、当支部会員の被害状況につきましては、会員数は同窓会会員名簿上から40名としておりますが、状況を問い合わせた結果、報告された範囲では、家屋半壊2名、屋根瓦や壁・塀等の一部損壊6名、農業被害（農地の液状化、野菜の出荷停止等）1名、となっており、家財損壊を含めると程度の差はあれ、ほぼ全員何らかの被害を受けております。

幸いにも会員には人的被害、家屋流失または全壊といった重大な被害がなかったものの、家屋に被害を被った会員の方々にとっては、その修復には技術的、経済的、労力的に困難が伴い、喜寿を過ぎたある会員さんは自ら屋根瓦の補修をするなど、皆さんご苦勞されております。誰もが一日も早い復旧を願って努力しているところであります。

この災害の影響で直接被害のほかに困ったことなどの報告もありません。

まずインフラ、停電と断水、交通機関や施設の損壊による移動困難、車用ガソリンと暖房用灯油の品不足、水、食料品類、電池などの品不足等々。

普段からの対策と備えが肝要と痛感させられました。

また、原発事故による放射能の様々な影響について心配する声も寄せられました。人工物がもたらしたこの一大危機を、競争の具にする愚かさを排除し、国内外のあらゆる分野の技術力と人類の英知を結集してのりこえ、安心と安全が取り戻されることを願うばかりです。大学におかれても学術面からそれに寄

与されることを期待する次第です。

最後に、今回の災害に際し、様々な形でご支援くださった全国の会員の皆様に支部会員を代表して心からお礼を申し上げ支部便りいたします。

## 福島県支部

### 東日本大震災に

### 遭遇して

渡辺喜八郎 (V大13)

2011年3月11日、午後2時46分に発生した東日本大震災は、震度6強の大地震と太平洋沿岸を襲った史上稀に見る大津波は、福島県で家屋の全壊・流失16、500棟に及び、死者・行方不明者2、000名という潰滅的被害を残した。

加えて、本県においては、国策として進められた東京電力福島第一原発の事故発生により、203万県民は未曾有の複合災害に、底知れぬ恐怖のもと、長く厳しい闘いを強いられております。

私は、郡山市の自宅と田村市都路町の実家（原発から20㌔

各務同窓会報

30km圏内に位置し、屋内退避区域、後に緊急時避難準備区域に指定」と2地域居住の生活でしたが、震災発生時は、実家の近くの診療所において栄養剤の点滴中で、点滴しながらの屋外避難という得がたい体験をいたしました。

翌12日は、原発での苛酷事故発生の風聞に接し直ちに福島市の長男宅に避難しましたが、福島市内の放射線量が懸念されたことから、新潟市の二男宅に身を寄せました。現在私ども夫婦は郡山市に身を落ち着かせております。

さて、東日本大震災の本格復興の構想を練ってきた「復興構想会議」は、6月25日に復興への諸提言、悲惨のなかの希望等を理念とした提言を首相に答申しました。その中で、「福島の大地がよみがえるときまで、震災復興は終わらない」とし、提言全体の「結び」でも「福島の再生を世界の人々とことほぐ（祝福する）日を望んでやまない」と記しました。

これらの提言に先だち、福島県は、いち早く「脱原発」を明記した復興基本方針をまとめ、原発との決別を内外に発信しました。

しかしながら、放射能汚染の予想を超えた面的広がりや汚染食品の全国的流通は、計り知れない災禍をもたらすものと強く認識させられたところです。

3・11を契機として、現行の社会構造の変革や、ヒトとしての価値観や倫理観の転換が早晩迫られるのではないかと考えております。

願わくば、東日本全域を襲う歴史的悲劇を、日本の創造的再生に転じる、まさに「災い転じて福となす」ことの到来を強く希求するものであります。

福島県支部会員の受賞

溝口俊夫（V大9）

平成22年度「動物愛護管理功労者環境大臣表彰」

福島県鳥獣保護センター所長（参与）・初代の福島県野生動物専門員

溝口さんは、野生動物専門獣医師の先駆的な存在で、野生動物の治療に加え、市民参加の環境教育や動物への負荷が少ないエコロードの設計など、幅広い自然保護活動の実績が高く評価された。なお、現在、福島原発事故による野生動物の被爆量を測り、放射能の汚染度や人への影響を調べるプロジェクトをすすめている。

岩手支部

岡田 幸助（V大15）

岩手県には15名ほどの会員がいますが、それぞれ、それなりの震災の被害がありました。ご存知のように沿岸の被害に比べると何も申すほどのものはないかもしれません。大船渡市にかつて獣医学科の教授をされていた千葉敏郎先生がおられますが、6月にお電話したところ、ご無事でした。国道を挟んで沿岸は壊滅状態だそうです。先生のお宅は無事でした。岩手県だけで死者4、502人、行方不明2、878人、家屋の流出23、653棟、目を覆うものがあります。（5月31日現在）

避難所で生活している人、自宅で避難生活している人はまだ多数おられます。私も盛岡市内の某所で全国から送られてくる支援物資の仕分け作業をお手伝いいたしました。レトルト食品、缶詰、おしめ、歯ブラシ、衣類、学用品、コンロなどあらゆるものが送られてきます。それらを再分類して段ボールに詰め直します。その段ボールを被災地からとりこられ、現地で配給されるよう



8月3日 大船渡市にて

です。岩手県は広く四国4県と同じぐらいの面積があり盛岡から被災地まで2〜3時間かかります。聞く話によりやすくと、配給の時間前に行列ができて、始まるとたちまち無くなるよう

波の年に生まれ、関東大震災をへて昭和三陸津波の年に亡くなっています。雨二モマケズの詩、この詩は公に発表する意図は無かったものですが、今回の震災後、香港、フランス、アメリカと大きな共感を呼んでいます。その中に「行って看病してやり、行って稲の藁を負い、行って怖がらなくても良い」とあります。私も遅まきながら7月と8月に現地に行つて参りました。だいたい瓦礫や家屋が撤去されていましたが、復興までにはかなりの時間がかかると思います。ご支援くださる方も1回きりでなく、無理の無い程度に、未永くご支援くださるようお願い申し上げます。

会員の受賞

松下 良（A23）

旭日双光章 平成21年11月3日

林 茂則（F大11）

瑞宝小綬章 平成22年11月3日

白橋 国弘（A大11）

旭日中綬章 平成23年4月29日

龍田 健（P大22）

（社）畜産技術協会 第45回優秀畜産技術者賞及び優秀畜産技術者特別賞

平成23年6月16日

宮澤賢治の一生は明治三陸津

# 事務局からのお知らせ

同窓会委員の皆様には日頃より暖かいご支援・ご指導を賜り、誠にありがとうございます。今年、日本では、三月十一日の東日本大震災により多くの犠牲者を出し、震災の復興対策、原発問題や放射能問題など深刻な課題が山積しています。皆様、お変わりありませんでしょうか。

平成二十年度より発足いたしました応用生物科学部寄附金制度では、多数の同窓生からのご協力をいただき、感謝申し上げます。皆様からのご支援により、今年、各務同窓会書庫が完成しました。また、皆様からのご支援は、本学部の教育支援活動に有効に活用させていただきますので、引き続き寄付によるご支援の程をよろしくお願いいたします。下記の記入例を参考に、同封の申込用紙を同窓会事務局までご送付ください。後日、応用生物科学部より寄附金の振込用紙を送付させていただきます。

平成十六年度より年次会費の積算が二万円に達した皆様は、自動的に終身会員になる制度を実施しております。年次会員の皆様に送付させていただく会費振込用紙には、終身会員への切り替え差額が記されております。多額の皆様もいらっしゃるかと思いますが、一括納入にご協力いただければ幸いです。

この会報では、多方面でご活動中の同窓会委員の皆様とそこでご活躍について紹介していきたいと考えております。各支部や会員の皆様からの情報のご提供はもちろんのこと、皆様からのご寄稿を心よりお待ちしております。そのような場合には、ぜひ同窓会事務局まで、一報いただければ幸いです。また、皆様のご活躍が新聞などで報道された場合には、事務局より原稿の執筆を依頼する場合がございます。ご協力のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げますとともに、今後のより一層のご発展をお祈り申し上げます。

## 寄附金のお願について

平成 20 年から、始まりました寄附金制度は趣意書にもありますように継続して行っていくので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。なお、本年より、振込先が郵便局になりました。

寄附金についての詳細は同封の「応用生物科学部へ寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。下記の記入例をご参考に、同封の申込用紙を利用してお申込下さい。

お申込みいただきました1ヶ月半程あとに、応用生物科学部より、郵便局の振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

### 申込書の記入の仕方

詳しくはこちらを確認してください。

\* 申込書に必要事項をご記入ください。

\* 申込書を下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1  
岐阜大学応用生物科学部学務係気付  
岐阜大学各務同窓会事務局

### 【申込書】

別紙様式第1号

岐阜大学長 殿

住所氏名を記入し、  
押印してください。

寄附者 氏名  
住所  
卒年 (卒年) 第 回 (昭和 年 卒修)  
氏名 印

(組織にあっては、組織名及び職・氏名をお願いします。)

金額を記入して  
ください。

1 寄附金額 円

2 寄附の目的及び条件

目的 岐阜大学における学術研究費

条件 なし

3 寄附金の名称  
岐阜大学奨学寄附金

4 その他 (主たる寄附金対象部署等)  
応用生物科学部共通  
(対応責任者: 職名 応用生物科学部長 氏名 金丸 義敬 )

## 第 92 号

平成 23 年 11 月 30 日  
岐阜大学各務同窓会

〒 501-1193 岐阜市柳戸 1-1  
TEL (058) 293-3411  
FAX (058) 293-2841  
振替 00820-9-12742  
http://www1.gifu-u.ac.jp/~kagami01/  
e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp